

# すずがも通信 43

行徳野鳥観察舎友の会会報

1987年4月1日

バンザイ



特集 バン



バン茶

バンク



いかにせ  
ませ



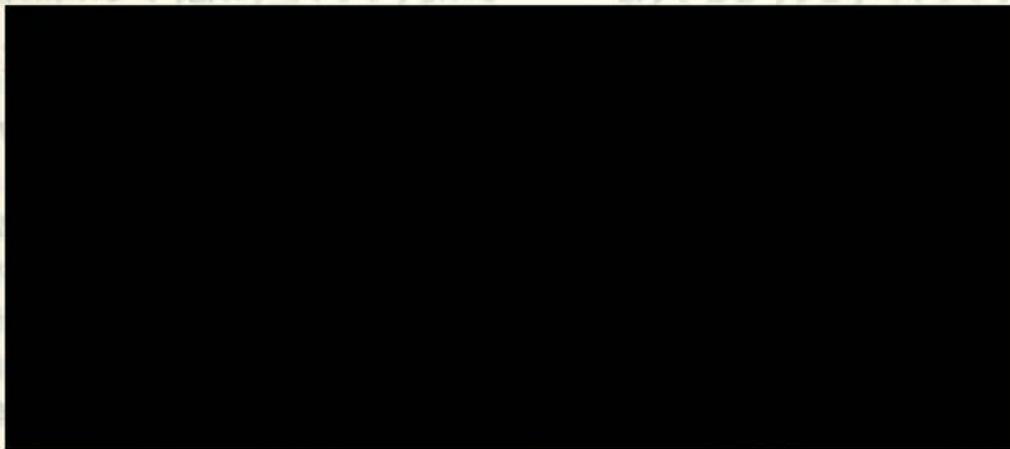
背バン号

バンカー

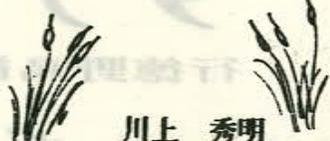


バン...

市川 拓西



特集



川上 秀明

バンは観察舎の前をチョコチョコと走りまわっているの、だれもがよく知っている鳥でしょう。でも、あらためて考えてみると、エサはなにを食べているのか、どんな巣をつくるのかなど知らないことがけっこうありました。

この鳥は身近すぎるせいか、あまり調べたという記憶がありません。調べた、というと、はじめて見た時くらいです。実を言うと、僕がはじめて自分で見分けられたのが、この鳥でした。僕は中学二年の時に、観察舎に来たのがきっかけで鳥を見始めたのですが、その時にパンフレットと見比べながら、ずっとエサを食べる様子を楽しんだのをおぼえています

この鳥は、この辺では一年中見られますが、実はりっぱに渡りをします。この鳥は南部琉球以北で繁殖し、冬は暖地に移動します。でも関東では冬も残るものがあるそうです。そこで、ここらでは一年中見られるのです。

なわばり争いの大げんか



奥さんおぼろけにらめあい

丸浜川で歩いているのをよく見ますがやはり一番かわいく見えるのは子供のいる時でしょう。でも去年は、残念ながら丸浜川ではヒナは見られませんでした。今年はずいぶん成功してほしいと思います。ところでバンの巣はどんなものなのでしょう。巣の作り方は場所によってずいぶん違うようですが、マコモやイグサのあるところでは、それらを押し倒してささえにしたりします。また適当なヤブがあれば、その上に枯れ葉を積み重ねて作り、アシのはえているところでは、アシの茎を折りまげるだけでつくりまします。力がないのか、地面にどしどし材料を積み上げて高い巣を作ることもあり、このときは高さが40~50cmにもなるそうです。でも、こんな巣に、親はどのように入るのでしょうか。あの大きな足を利用するのです。足を巣の壁にひっかけてのぼるのだそうです。その他、グミの木の上の枝の上に巣を作ったものもいたそうです。

そこで産む卵のことですが、長径4cm短径2.9cmほどのものを6~8個産むのが普通で、少なくて4、5個、多くて10個も産むそうです。そして、その卵がかえるのは産んでから18日くらいで最初のもがかえってから、最後のものがかえるまでに3日間くらい差があるようです。ところで、観察舎の前でバンなどを食べているのをみなさん一度は見たことがあるでしょう。バンはどんなものを食べ

ているのでしょうか。丸浜川では、アシや水面に浮かんでいる藻類などを食べています。ほかにアワ、イネ、ウキクサ、キイチゴ、ナシ、ウメ、オオバコなど、動物質のものではゴミムシ、ゲンゴロウ、ギンヤンマ、ヤゴ、バッタなどを食べます。

また、この鳥は、みなさんが知っての通り、水がとて好きです。この鳥は一日の大半、水面に浮いているのに、ひっきりなしに水浴びをすることは、不思議な習性の一つです。首で水をすくって体に浴びる姿は、丸浜川でもよくみかけますが、よく見ているとそれを30分おき、1時間おきに、ひっきりなしに繰り返すそうです。

ところで、丸浜川のバンの繁殖ですが昔は40羽近くのヒナが見られた年もあったそうですが、去年は前に書いた通り一羽も見られませんでした。もっと細かく見ていくと82年までは15羽ほどもヒナが見られたのですが、83年にはほとんど見られませんでした。水の汚れなどが原因でしようが、バンのヒナが見られなくなってしまうのはとてももったいないことだと思います。今、友の会では、丸浜川をきれいにしようと頑張っているの、もうすぐまたバンのヒナが見られるようになるかも知れません。

(この原稿を書いた日の観察会でみつけたチュウヒのペレットの中に、バンのものと思われる口ばしと羽が入っていました! 情が移ったのか、何やらいつもよりかわいそうに思えて……。)

丸浜川のバンを観察してみよう。何をしているかな?

1. 水辺を歩いている。えさをとっている? それとも巣材をみつめている?
2. 泳いでいる。泳ぎ方をカモやアヒルとくらべてみよう。



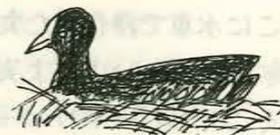
大きな足だね!



さかんに首をふる。水かきがないのでうまく泳げない。

3. 巣をさがしてみよう。

去年は観察舎のすぐ前に巣を作った。



みつけたら、そっと観察してね。



かわいいヒナが見られるといいです!

1月末に社用で香港へ出張した際、有名な水鳥保護区、マイポを訪問した。

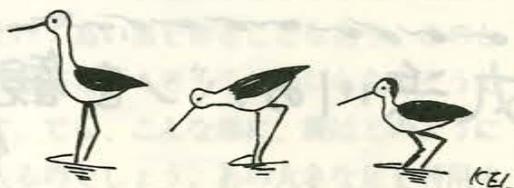
香港というと、「百万ドルの夜景」や林立する高層ビルがまず頭に浮かぶが、観光客で賑わう中心街を離れて北部へ向かうとまだまだ豊かな自然が目につく。英国領だけあって自然保護区も少なくない。その中のひとつ、マイポ水鳥保護区は香港の最北部、中国との国境近くに位置する。WWFの湿地保護キャンペーンの一環として作られた本格的な湿地保護区だ。

実はこのマイポ保護区に入るには、前もって香港政府の許可をもらわなければならない。団体ならともかく、個人で許可をもらうのは結構、大変らしい。そうとも知らず、のんびり準備をしていたので、実際、許可がいることがわかったのは出発の一週間前だった。しかし、観光

というより、「よみがえれ新浜」湿地回復実験のために、是非、本場仕込みの湿地保護区を見ておきたい。手紙、TLX電話でと懸命に連絡をとったところ、急な訪問であったにもかかわらず、香港WWFが快く訪問を許可してくれたのは、本当にありがたかった。

1月23日、朝一番でまず香港WWFの事務所へ出かけた。WWFの人達はとても親切で、英語の苦手な私にも、身振り手振り、漢字の筆談などをおり混ぜながらマイポへの道順を説明してくれた。そこで、さっそくハイヤーで一路、マイポ保護区をめざして北部へ向かった。

(つづく)



☆☆☆ バードウィーク特別行事 ☆☆☆

◎園内観察会、映画会 5月16日(土) 午前10時～午後3時

主催：千葉県自然保護課

園内観察会では1日に数回、保護区の中を御案内します。映画会は1階の視聴覚室で行われ、2本の映画を繰りかえし上映する予定。また、来館した子供達に記念のバッジが配られます。お楽しみに。

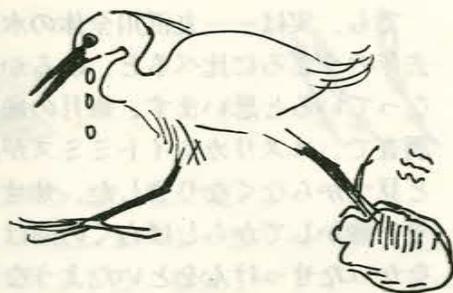
◎友の会、特別展示「よみがえれ新浜」 5月10日(日)～16日(土)

保護区内に新しい池を作り、そこに水車で浄化した丸浜川の水を引いて、保護区内に湿地を作る「よみがえれ新浜」実験が、いよいよ実行に移されます。この春には新池造成工事が行われる予定。そこで、バードウィークには新池をテーマに「池ができるまで」、「水がきれいになるしくみ」などを、1階展示室に展示する予定です。お立ち寄り下さい。

おとなりのアンテナの上で、モズがくちゅくちゅと小声でさえずっています。しばらく聞いていると、ギョギョシ、ギョッ、ギョッとオオヨシキリのような声で歌いはじめました。毎年来ていた芸達者な雄のはずですが、どうもあまり真似がうまくありません。

ツバメが来ました。保護区での初認は3月20日。ツルシギが3月6日、コチドリは3月15日(12羽)、暖冬の割には、春告げ鳥たちの到着は少し遅めです。でも2月17日にアオアシシギが姿を現わしました。春と秋に通過する旅鳥としてはずいぶん早い記録です。国内のどこかで越冬していたのでしょうか。

この冬は珍しくオオハシシギ2羽とアカアシシギ1羽が冬を越しました。22日の観察会では、北池でこの3羽とセイタカシギ12羽、ツルシギ1羽という豪華な群れを一望して、にんまり。シギといえば、3月中旬になってハマシギの数がふえ、3、400羽が一斉に飛ぶ光景が毎日のように見られます。



堤防にずらりと並んだセグロカモメの中に、きまってオオセグロカモメが1羽まじっています。慣れるとひととき濃い色ですぐわかります。週に1、2日、シロカモメが見られますが、こちらは淡色のスーツに純白の翼端が特徴。それにしても、ただのカモメの少ないこと。

3月21日のこと、入船中の生徒さんたちが4、5人、おまわりさんと一緒にコサギを運んで来られました。見ると爪指をカキにはさまれています。カキは大きくて重たい上、ふちがぎざぎざで、コサギの指はほとんどちぎれそうになっていました。ドライバーで貝を少しこじ抜けて外してやり、折れた指を保定しましたが、コサギは案外元気で、がつがつ餌を食べています。貝に足をはさまれる事故もけっこうあるものですね。

梅、沈丁花、桃、柳、レンギョウ、ニワトコ、終南天、水仙、オオイヌノフクリ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ハコベ、ナズナ、椿、まだまだいっぱい。みんな今開花しています。枯草の根もとには緑の芽がずんずんのびて、このまま新緑になだれこみそう。“およそ自然は時間を浪費しない”それでも黄昏どきに花の香がただよい、コウモリがひらひらと飛びかうのを眺めると、春宵一刻値千金がしみじみと感じられるこのごろです。

印刷が変わりました!

一編集部

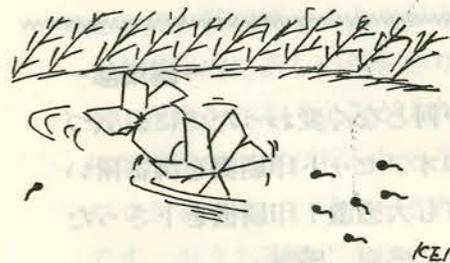
昨年の12月号、No.41 から「すずがも通信」の紙面が何となく変わったのにお気づきでしょうか? 残念ながら編集のせいではなく、中古のオフセット印刷機を御寄附いただいたからなのです。きれいな仕上がりに編集する方も大感激! 印刷機を下さった会員の石井信義さん、無料で製版をして下さる近藤さんに感謝、感謝。

## せせらぎ2、3号が動きはじめました

小雨もよいの2月22日、うなぎ養殖用の水車、せせらぎ2号と3号のスイッチが入れられました。昨年5月3日から動いている1号とまったく同じ型、出力(1馬力; 750W)のもので、場所は観察舎から200mほど北、もと欠真間水門のあったところ(保護区の入口)です。今回は2台の水車を10mほど離してつなぎ、お互いにそっぽを向くようにしました。2台の水車のところで水がまわり、何回か空気に触れることになるだろうという見込みからです。

それから1か月。ありがたいことに、水車のまわりの酸素量はきちんと増加しています。また水流の中に限っては、泥の中の有機物量(この言い方は正確ではありません。化学的酸素要求量; CODと言わなくてははいけないのですが、どうもなじみにくくて)が減少してきたようです。さらに、泥の中の硫化水素の量は明らかに減りました。

実のところ、感動的な結果ではないかと思っています。本当に当たり前すぎるくらい当たり前のことなのですが、要は酸素を与えてやればバクテリアを中心とする微生物が活発に増殖し、水や泥の中の有機物(つまり水の汚れ)をせっせと体内に取り込むということです。何回か書いてきたように、污水处理場で行なわれている活性汚泥法とまったく同じことが、どぶ川でもちゃんと行なわれる



KEI.

のです。COD量が減ってくるはずだと予想はしていたものの、本当にそうなったのがとてもうれしいのです。

もう一つ、どぶ川がくさくなる大きな原因である硫化水素が減少したことも、予想通りとはいえ、うれしい結果です。

硫化水素は、酸素がない状態で生きて行く嫌気性細菌が排出する物質です。ちょうど私たちが酸素を吸って、炭酸ガスを出すのと同じことです。嫌気性細菌も生物ですから、有機物を分解する働きをしますが、酸素を使う微生物よりもずっと能率が悪い上、硫化水素やアンモニアなど、他の生物にとって有害な物質を出すのがこまりものです。

硫化水素が減ったのは、酸素量の増加で嫌気性細菌がおさえられたことを示していると考えてよいのではないのでしょうか。当然すぎることだと思うのですが、去年から、やれ泥の黒みがなくなったとか、やれにおいがうすくなったとか言って喜んでいたのできちんと証拠だてられそうで、安心しました。

でも、実は……丸浜川全体の水質は、去年の今ごろに比べると、はるかに悪くなっていると思います。毎月の底生動物調査で、ユスリカやイトミミズがほとんど見つからなくなりました。せせらぎ1号を動かしてからしばらくの間は見られなかったせっけんをといたような白いにごり(析出した硫黄)がほとんど毎日見られています。1、2月は、観察舎から欠真間水門の間では卵の腐ったような硫化水素臭がしていました。去年のように水車を動かしてすぐ目に見えるような水の浄化が起こることは望み薄です。

こうした水質悪化の理由は、見当がつけられそうです。まず、最大のものは去年の3月の暗渠設置によって、湊排水機場の遊水池(日の出町の前)と丸浜川が繋がられたことと言えるでしょう。本来は福栄方面の家庭排水を湊排水機場へ導き、丸浜川へ入れないようにとの目的で作られた暗渠が、逆に湊と猫実の2つの排水機場をつなぐことになりました。遊水池の水は、流れ込む生下水より水質が悪いのです。滞留している間に酸素が使い果たされてしまうからです。冬の下水は1ppm前後の酸素(約10%)を含んでいるのに、猫実、湊の遊水池では0.1から0.3ppm(約1から3%)の酸素しかありません。

丸浜川の水は、猫実排水機場の水位が低ければ、猫実へ向かって流れ、湊排水機場の水位が低ければ、湊へ向かって逆流します。このところ猫実の方が低いので、福栄公園から観察舎、塩浜橋へと正常の地形通り流れています。そして遊水池から流入してくる水は、いつはかっても0.2ppm前後の酸素しか含んでいません。これでは水底の生物は生きられないわけです。



### 初めまして、ヒレンジャク君

3月21日、XXXXXXXXXXのお宅のタチバナモドキの生垣で、4羽のヒレンジャクが実を食べているのを会員の鈴木裕子さんが見つけました。行徳での記録は初めてです。とてもきれいだったそうで、夕方まで落ちついていました。



もう一つは、水底の地形です。しゅんせつ工事の結果、観察舎から欠真間水門の間は丸浜川全体(猫実排水機場を除く)で一番深くなりました。そこで、特に欠真間三角から欠真間水門の間にたまっていた浮泥がほとんど全部流れ込み、たぶんしゅんせつの前よりも厚いへどろの層ができたのではないかと思います。

水が汚れ、にごっているときには、深い水底には光が届かず、酸素がなくなります。現在の丸浜川では、30cm以上の水深では汚れが分解されるよりたまる速度の方が大きいようです。深くすることは、どぶ川では致命的ではないでしょうか。

一方、去年あれほど劇的に酸素量の増加と状態の好転が見られたのは、しゅんせつした上に砂を入れ、深くなるのを抑えたこと、また底のへどろにふたをしたような結果なのかも知れません。

それでも、せせらぎ2、3号による酸素量増加は、150mほど下流までどうにか到達しています。たまったへどろの分解に役立つでしょうか。今のところ、硫化水素の減少がみられるのは、水車の水流のま下だけなのですが。

昭和61年度決算報告

自 昭和61年 1月 1日  
至 61年12月31日

収入の部			支出の部		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
繰越金	383,007.-		編集費	7,310.-	
会費	194,700.-		印刷費	55,840.-	
御寄付	5,500.-		発送費	72,880.-	
利子	15,786.-	定額貯金は推計値	雑費	2,290.-	
仮受金	57,050.-	振替貯金入金	謝礼	6,900.-	
計	656,043.-		書籍購入費	17,100.-	賛助会員に本送付
			仮受金支払	79,750.-	本代入金分支払
			計	242,070.-	

会費内訳

賛助 24名(3,000円×5+2,000×19)  
普通 116.5名(1,000円×114.5 +  
1,100×2)  
ジュニア 50名(500円×50)

利子内訳

普通 S61/4/1 1,277.-  
定額 10万 → 5,773.- (×0.0525)  
13万 → 8,736.- (×0.0575)



事務局より

あなたの会費切れの年月は封筒の宛先の最下行をごらんください。6206F は62年6月に会費の切れる普通会員、Sは賛助会員、Jはジュニア会員を表わします。会費切れのときは、封筒に『乞会費納入』の朱印を押しますのでよろしく。

毎月第2日曜、4時頃から観察舎図書室で運営会議を開いています。どなたでも参加できますので、お気軽にのぞきにいらして下さい。「すずがも通信」の編集をはじめ、仕事がどっさり。助っ人さん、大歓迎！たいてい、お菓子がありますよ。

行事案内 誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜探鳥会(毎月第2日曜日) 4月12日、5月10日

集合: 東西線行徳駅前 午前10時  
解散: 行徳野鳥観察舎 午後3時頃  
担当: 東良一

持物: 昼食、飲物、バス代(大人210円、子供110円)、防寒具  
春の渡りのシーズンがきました。美しい夏羽に衣替えしたハマシギ、トウネン、メダイチドリ……。妙典、江戸川放水路でシギやチドリなどを観察し、午後からバスで保護区へ向かいます。歩きやすい服装・はきものでどうぞ。



☆定例園内観察会(毎月第1・3日曜日) 4月5日・19日、5月3日・17日

集合: 行徳野鳥観察舎前 午後1時半  
解散: " 午後4時頃  
担当: 観察舎 蓮尾、協賛 友の会

暖かい春の日曜日、急にどこかへ出かけたくなくなったら、観察舎の園内巡りへどうぞ。足もとにはかわいらしい野草が咲き、頭上を野鳥が飛び……空がひろーく見えます。



☆夕暮れ観察会 5月24日(日)

集合: 行徳野鳥観察舎 午後5時  
解散: " 午後7時頃  
担当: 観察舎 蓮尾

日がすっかり長くなりました。夕暮れ時のひととき、ネグラハむかう鳥達を観察しながら、保護区の中を歩きましょう。上着を一枚、忘れずに。

☆丸浜バードリバーを調べよう(毎月第4日曜日) 4月26日、5月24日

集合: 行徳野鳥観察舎 午前10時  
解散: " 午後3時頃  
担当: 東良一、矢野耕一  
持物: 長ぐつ、タオル、ビニール手袋、昼食

新しい2台の水車が回り出し、悪化した丸浜川バードリバーの水質も少しずつよくなってきているようです。ボートにのって、丸浜川の底泥を採取し、底生生物を調べます。汚れてもよい服装で。



☆水鳥カウント 1月15日(木・祝)

担当: 東 良一

保護区、妙典、江戸川放水路、原木、塩浜海岸でシギやチドリなど水鳥の数を数えます。むずかしいことはありませんので、参加御希望の方は東まで御連絡を。

☆バードウィーク特別行事 5月16日(土)

観察会、映画会などバードウィークの特別行事が行われます。詳しくはP を。

☆真間川の桜並木満開キャンペーン 4月4日(土)・5日(日)

場所: 富貴島小学校裏手

時間: 4月4日(土) 午後1時~午後5時

5日(日) 午前11時~午後5時

主催: 真間川の桜並木を守る市民の会 平松 南

協賛 友の会他 (担当: 東 けい子)

日中二人の画家の描いた桜並木の絵の展示即売会「桜並木が結ぶ日中友好野外展」パネル展示「市川市の水害はなぜおこるか」、桜並木をテーマにした童話のさし絵原画展、廃油から作ったせっけんの販売など多彩な催しが開かれます。疲れたら、桜茶屋で手作りの桜もちを食べながら一服。友の会も「水車による水質浄化実験」展示やマスコットの販売などを行います。今年のお花見は真間川で!

## 編集後記

2年ぶりのお花見は、真間川でマスコットを売りながら……ということになりそう遊びに来て下さい。(馨)

眠い 睡い ねむい ネムイ……春ですねえ。さっきからアクビばかり出て、いっこうに筆(ワープロだから、キーというべきか)が進みません。希伊ちゃんは沖縄、さゆみちゃんは東北、佐記子ちゃんは北海道、みんな一人旅にいっちゃったし……。いいんだ、いいんだ、ツクシが出たし、オオイヌノフグリも花ざかりだもん。(純)

すずがも通信 No. 43

1987年4月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア 500円

発行人 東 良一

郵便振替

事務局

編集 蓮尾純子、東 馨子

行徳野鳥観察舎